

受験を通して学んだこと

今春、大阪府立住吉高等学校の国際文化科に合格したYさんは、小2の冬から「スペースわん」で学んできました。途中、中1の秋ごろからしばらく休会していましたが、中2の1月から再開。「らくだ」のプリントをやりながら受験勉強をし、志望校に合格できました。

彼女の受験を通して感じたことを書いた「『らくだ』を小学校低学年からやり続ける意味」というタイトルの原稿が、月刊「QL クォンタムリープ」Vol.2（注）に載っています。親御さんからいただいたお手紙に書かれていた受験生の親との葛藤についても触れています。

ただ、字数の問題もあり、小2から中3までの長きにわたって、彼女がどのような経緯をたどってきたのか、また彼女自身が受験をどのように乗り越え、受験を終えてどう感じているのかといった具体的なことにはあまり触れられませんでした。

そこで、通信のリニューアルにあたり、彼女の歩んできた道を振り返りつつ、『らくだ』を小学校低学年からやり続ける意味をもっと具体的に掘り下げて書いてみたいと思います。

その前に、高校生活にも慣れたであろう5月のゴールデンウィークの頃、Yさんに受験を通して感じたこと・学んだことについてインタビューしましたので、まずはそれを紹介します。以下、Yさんの話を永田がまとめたものです。

注) 「スペースわん」に在庫あり。あるいは、「NATURAL FOODS&GOODS 暮らし屋」さんか、「女たちの出店 ChaCha」さんで。「おやのきもち こどものきもち」のp.4掲示板参照。

「無理」と言われ続けて

中3の9月の実力テストがすごく悪くて、「無理や」「落ちるわ」と言われ、毎日泣いていました。「1リットルの涙」どころか「5リットルの涙」でした。

この時期は、まだ志望校ははっきりしていませんでした。ただ公立の進学校へ行きたいとぼんやりと思っていただけだったのですが、やはりこの成績では無理となるショックで、「勉強してもムダかな」と思い、9月はあまり勉強しませんでした。

また、そのころは、運動会で応援団、文化祭でダンスの練習があり、帰宅も遅い日が続いていました。

ただ、10月にも実力テストがあったのですが、9月のテストで一番悪かった社会を死ぬほどやりました。すると、9月は平均点以下の48点だったのが、10月は、平均点が40点のところ84点取れたのです。

10月の中間テストはよかったです。私は、中間テストや期末テストといった範囲の決まっているテストは点数がよく、実力テストや模擬試験が、国語と英語はいいのですが、他の教科のどれかが悪いです。10月に受けた外部の模試では、数学が悪く、勉強したつもりが、11月の実力テストでもあまり成果が出ませんでした。

私の学年は、飛び抜けて成績のいい子が数人いて、そのあとはほとんど成績が変わらない集団がいるので、少々がんばっても内申がなかなか上がりません。それどころか、2学期は、音楽・美術・技術家庭・保健体育の4教科の10段階評価が思いのほか悪く、ショックでした。

学校では、行きたい公立高校は到底無理と言われ、行きたくない高校を勧められました。私立も、行きたい私立は、併願は無理、専願でも難しいが受けたいならしかたないという感じで言われ、一旦私立専願に決めたのでした。

受験は「サバイバル」

ちょうどそのころ、公立前期の住吉高校の国際文化科のことを知り、英語が好きな私は、「ぜひここに行きたい！」と強く思いました。それまでただほんやりと「進学校に行きたい」と思っていた気持ちとは違う強い気持ちでした。

しかし、ここも難しいし、新しい学科で情報が少ないのも不安でした。「前の年に、偏差値67の子が落ちた」という噂も聞き、とても無理なように思いましたが、ぜひとも挑戦してみたい気持ちになりました。

ただ、その私立にも魅力を感じていたので、専願にするなら住吉は受けられないとあきらめていたところ、ギリギリで併願での受験にOKが出て、まずは、併願の私立に合格すること、そして、「ダメでもあの私立に行ける」という気持ちで住吉高校にチャレンジすることに決めました。

専願と言われた私立の併願がOKになったのは、11月～12月に成績がグッと上がってきたからです。それは、9月10月の実力や模試が悪かったことで、「勉強せな！」という気持ちになったことが大きいと思います。特に、なかなか成果の上がらなかった数学は、11月も悪かったけれど、それがかえってバネになって毎日やり続け、がんばることができました。

また、勉強している部屋がとても寒く、家族とのバトルもあり、そういう一見「マイナス」のこともバネになって、「絶対合格してやる！」という思いになりました。私にとって受験は「サバイバル」でしたね。

「好きなことばかり
やってたら、成長せえへん」

振り返ってみると、受験勉強は、嫌いな教科ばかりやりました。私の嫌いな教科は、数学・理科・社会なのですが、嫌いだったのが、やってるうちに好きになっていました。勉強しているうちに、もっと知りたいとか、興味が出てくるのです。特に数学は、「嫌い」と決めつけていました。数学は、勉強しても成果が出るまで時間がかかります。でも、成果が出て来始めたら、考えるのが好きになりました。

私は小さいころからピアノを習っているのですが、やっぱり楽しいのは曲の練習で、ハノンやツェルニーといった指の練習ははっきり言って嫌いです。でも、やらないと指が動かなくなって曲がうまく弾けません。つまり、嫌いなことをやるからこそ、好きなことができるのです。

「好きなことばかりやってたら成長せえへん」ということを、受験で感じました。

(次号に続く)

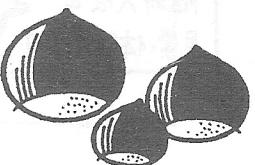
「受験っていいね」

Yさんは、あれだけしんどい思いをした受験を、「この受験で自分が大きくなれた気がする」というふうに振り返っています。そして、お母さんからお聞きした話では、合格がわかる前に、「受験っていいね」と言ったそうです。

私は、受験というものは、「合格するかしないか」よりも、「受験を通して何をつかんだのか」が大事だと思います。

Yさんは、「受験はほんとにつらかったけど、それを乗り越えられたということが今後のはげみになり自信になる」とと言っています。

次号では、Yさんの受験までの歩みを振り返ってみたいと思います。



わん!

今月の一言

永田先生へ

こんにちわb(,,>▽<,,)

今からスペースわんの感想を書きますねン♪

生徒さんの生の声を紹介するコーナーです。
今回は、「スペースわん」で学び始めて約半年の「ペンネーム：山P大好きっ仔」さん
(小6)からのメールです。
編集せずそのまま紹介します。

私は、スペースわんにくる前、計算するとき手を使ってました。

でも、恥ずかしいから見えないとこでやっていました。

暗算するのは、あきらめっていました ε-(≡ω≡)フウ....

でも今は、普通に暗算でできてメチャメチャ嬉しいです(嬉〃▽〃)ゞ

いつも宿題するときとか、自分で全然考えないで

すぐ、親に聞いていました。

でも、今は自分で考えてどうしてもわからへんとこだけ聞きます。

スペースわんに来るまでは、自分のコトをあほだと思っていたけど

自信がでてきました。

前は、算数が苦手な科目だったけど、今はスキな科目になりました！

らくだのプリントは、めっちゃスゴイと思いました(*Θ▽Θ)σスゴイ♪

ペンネーム：山P大好きっ仔より



らくだ教材で学ぶ塾 スペースわん / 幼児から大人まで 年齢不問

学習日

月・火・木 (祝日休)

PM 2:00~9:00

週1~3回 (原則は週1回)

指導者と相談して
都合のよい日時を
決めます

科目

算数・数学・国語・英語

(原則として 最初は算数から)

入会金

1家族 ¥15.000- (税込)

「セルフランニングどの子にも学力がつく」
(平井雷太著)を 入会時に進呈

月会費

週何回来ても

何科目学んでも

¥10.000- (税込)

【スペースわん専用 講読料含】

通信指導あり

随時入会可

見学・体験学習可

事前に

お問い合わせ

下さい

TEL&FAX 0721-54-3301 指導者 永田 仁美